

地域防災力の強化に向けて

—自分たちのまちは自分たちで守る—

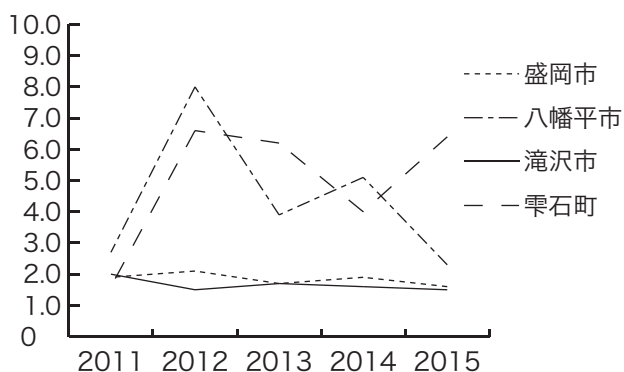


滝沢市の火災の状況

滝沢市では、平成28年中に12件、平成27年中に8件の火災が発生しました。

左のグラフは、滝沢市と近隣市町の出火率（人口1万人当たりの出火件数）の推移を表したものです。滝沢市の火災発生率は、近隣に比べ低い水準にあることが分かります。

この高い防災力は、消防職員や地域の自主防災組織の皆さん、そして消防団員の皆さんによって支えられています。



出火率（人口1万人当たりの出火件数）の推移
（出典：消防年報）

消防職員とともに 消防活動に消防団が尽力

火災や災害現場などで消防活動に当たる人たちに、消防職員と消防団員がいます。

消防職員とは常勤の地方公務員で、消防署などで勤務する職員のことをいいます。

では、消防団員とはどのような人たちなのでしょう。普段はそれぞれの仕事を持ちながら、火災や災害が発生したときには自宅や職場から現場に駆けつけ、その地域での経験を生かした消火・救助活動を行います。

「自分たちのまちは自分たちで守る」という使命感で活動し、7月下旬に発生した大雨災害においても、深



今年7月下旬の大雨に伴う災害対策本部

消防団の

魅力ってナニ？

消防団員の

リアルな声

大規模災害時や消防署から距離がある地域において特に力を発揮する消防団。消火活動や風水害対応、訓練など多岐にわたる消防団活動と本業の両立と大変なイメージが伴います。消防団で活動する魅力・やりがいはあるのでしょうか。市内で活躍する消防団員の皆さんにお話を伺いました。



本部付 大平 智美さん（37歳）栄養士

保育園の防災教室など啓発活動をしています。子育てと両立しながらの活動ですが、訓練に子どもを連れて行けるなど、周囲の理解があるので苦ではありません。

団で得た応急手当の知識は、わが子のいざという時に役立ちますし、ここでの経験は実生活にも生きています。

大災害時、最も重要なのは地域の力 消防団は地域防災の要だ



滝沢消防署長の古舘浩幸氏

滝沢消防署の職員は、滝沢北出張所を含め、44人。交代で勤務しますから、実際に任務に当たっているのは、その3分の1です。

公的機関による消火・救助活動は、大規模災害時、被害が大きくなればなるほど、追いつかなくなることが想定されます。そこで大きな役割を果たすのが、消防団や

自主防災組織など地域の皆さんの力です。

特に消防団は、団員数337人と大きな要員動員力を持っています。また、災害時の危険箇所や、助けを必要とする人がどこに住んでいるかなど、豊富な地域の情報も持っています。

消防団は、まさしく地域防災の要であり、欠くことのできない存在なのです。

消防団員の不足
滝沢市では地区ごとに11分団を設置しており、その定数は420人です。全国的にも消防団員の不足が課題となっていますが、滝沢市の団員数は337人（4月1日時点、充足率約80割と、全国平均92・5割（平成28年10月1日時点）と比べても低い数値です。

「自分たちのまちは自分たちで守る」には、マンパワーが必要です。近年では女性消防団員や大学生の団員も活躍しています。消防団は、無くても



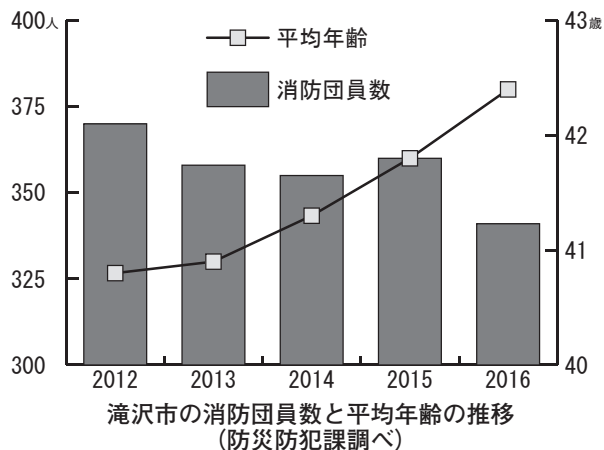
浸水害を食い止めるため出動する消防団

夜から長時間にわたって、地域を守るため最前線で活動しています。

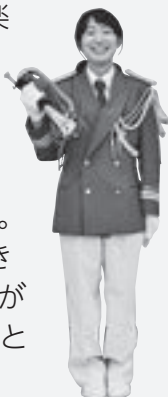
問い合わせ
防災防犯課（☎6566・6507）

ラップ隊について
地区ごとの11分団のほか、ラップ隊が組織されています。ラップ隊は、火災や災害時には消防団員として現場で活動しています。普段は消防のイベントで活躍しています。その演奏は県内でもトップクラスの音質、行進演奏と評されています。楽器や音楽に興味のある皆さんはもちろんのこと、初心者でも大歓迎です。

はならない存在。安全で安心な暮らしと、災害に強い地域づくりのため、あなたの力を必要としています。



昔から吹奏楽をしていて、楽器が好きだったので入団しました。練習はとても楽しいです。皆さん優しく、よくお菓子を頂きます(笑)。指導も丁寧なので、初心者でも大丈夫です。



ラップ隊 菅原 歩さん (23歳) 公務員

隊列がビシッとそろったときなど、練習の成果が出るとやりがいを感じます。女性団員がもっと増えるとうれしいです。

大学の先輩からの誘いが入団のきっかけです。火災現場での活動だけでなく、広報活動や地域のイベントのお手伝いも仕事の一つです。消防団がきっかけで人間関係が広がることが魅力の一つと感じています。それぞれのライフスタイルに合わせて活動できるので、気軽に入団してもらえればと思います。



第7分団 寺澤 健人さん (21歳) 大学生